

『カサにしているねん』

3歳児 7月



エピソード

保育者が寒冷紗の上に水を掛けると、上から水が落ちてくることに「雨降ってきた～」と喜んで遊ぶ姿がありました。何度か繰り返す内に、バケツやタライを被り「カサにしたよ」「頭に掛からないねん」と保育者や友達に伝えながら遊んでいました。

ペットボトルシャワーから水が出てきている場所で遊んでいる友達の姿をA児は少し離れたところから見ていたので、「Aちゃんもする？」と保育者が聞くと、近くにあったもち箱を頭に被り、「カサにしているねん」と嬉しそうに水の下を通っていました。その場で遊んでいたB児、C児はA児の様子を見て、タライやプリンカップなどの容器を頭に乘せて「これもカサやで」と身近な物を使ってカサに見立てて遊ぶ姿がありました。その後もA児はもち箱を被りながら繰り返し水の下を通ることを楽しんでいましたが、「前が見えへんねん」と何度かつぶやいている姿があったので、どうするのか見守っていると、もち箱より小さいボウルを持ってきて頭に乗せ「先生、見て。違うカサ」と嬉しそうに表情で伝えてくれました。その後も「キャー!」「冷たい」と言いながら嬉しそうにボウルを被って遊び、最後には何も被らずに全身水浸しになって遊ぶ姿がありました。

保育者の思い

・ずっと友達や保育者の様子を傍で見ていたので「やってみたい!」という気持ちかな?と思いを掛けました。

・A児の水に濡れたくない、でもやってみたいという思いを受け止めながら遊びを見守っていました。

・いろいろな物(もち箱、タライ、プリンカップ)が子どもたちにとってのカサになっていておもしろい!

・この言葉の中にも、もしかしたら「重たいな」「カサは前見えるのにな…」「何か音がする」などいろいろな思いがあったのかな?

・この遊びから、A児はダイナミックに水遊びを楽しむようになりました。自分の中でいろいろなことを考えて遊びが広がっている姿をこれからも大切に見守っていきたいと思います。

家庭だったら・・・

・雨の日にカサをさした時、雨が落ちる音を楽しんでみるといいかもしれません。

・シャワーをする時、ふろ桶などが近くなると頭に被ったりする姿が見られるかな?

子どもの育ちや学び

・水に抵抗感があったA児も友達や保育者の様子を見て、自分なりに参加できる方法を考えて遊ぶ姿がありました。何度も繰り返すことで、水への抵抗感もなくなり水の気持ちよさを感じられるようになりました。

・身近な物を使って、実際に使ったことのある「カサ」のイメージを子どもたちなりに実現していました。こどもの発想にはいつも驚かされています。